

佐賀県研究成果情報（平成 27 年度）

‘佐賀果試 9 号’のマルチ栽培における収量および果実品質					
[要約] 上野早生の珠心胚実生である‘佐賀果試 9 号’は上野早生に比べて樹容積が大きく、収量は1.5倍程度となる。また、6月上旬に <u>早期マルチ栽培</u> を実施することにより10月上～中旬に <u>ブランドみかんの基準</u> となる <u>糖度11</u> 以上の果実品質を確保できる。					
果樹試験場・常緑果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ウンシュウミカン

[背景・ねらい]

本県で育成した上野早生の珠心胚実生である‘佐賀果試 9 号’は、上野早生よりも着色や減酸が早く、糖度も高い特徴があり、品質不良が問題となっている極早生温州において今後の普及が期待される品種である。そこで、確実にブランドみかんを生産するため‘佐賀果試 9 号’の栽培管理方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ‘佐賀果試 9 号’は樹勢が強く、定植 8 年後の樹容積は上野早生の約 2 倍程度となる（図 1）。
2. 収量は上野早生より安定して多い（図 2）。
3. 果実糖度は露地栽培では10月上旬で 8～9 度程度であるが、マルチ栽培の場合は水分ストレスを付与しても樹勢が低下することなく、安定して糖度11以上の高糖度果実が生産できる（表 1）。
4. マルチ栽培における収穫時期は上野早生よりも早い。また、糖度は上野早生よりも高く、10月中旬の果実品質は糖度11以上で、クエン酸含量は 1 %程度となる（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 果樹試験場内の花崗岩・砂壤土の土壌条件で得られた結果である。
2. 糖度不足が問題となっている極早生温州において、高糖度果実の生産が期待できる。
3. 必ず早期マルチを実施するとともに、マルチ被覆後は樹体のストレス状況に応じたマルチの開閉作業やかん水の実施する。

[具体的データ]

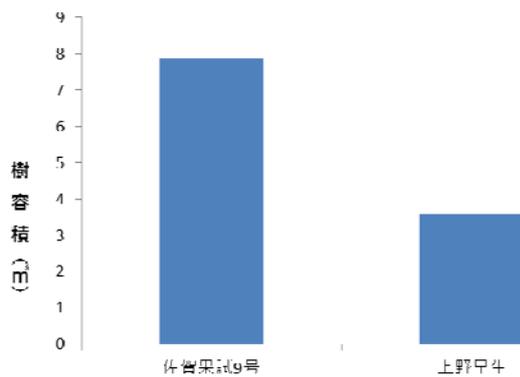


図1 定植 8 年後の樹容積

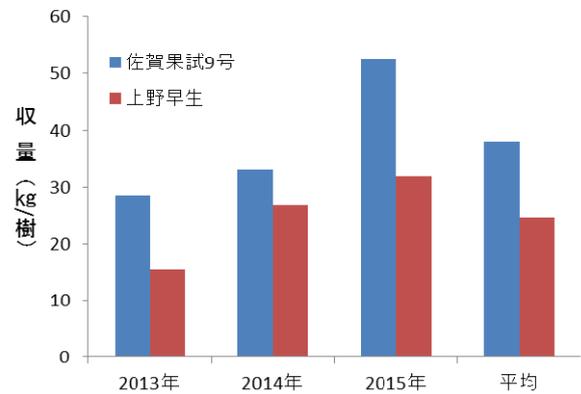


図2 収量の推移

表1 ‘佐賀果試9号’の栽培様式の違いが果実品質に及ぼす影響

年次	調査日	栽培様式	被覆日	横径(mm)	果実重(g)	糖度	クエン酸含量(%)
2010年	10/8	マルチ	7/9	65.5	111.4	11.5	1.41
		露地	—	65.4	107.1	8.1	1.04
2011年	10/6	マルチ	6/6	62.9	98.5	11.9	1.06
		露地	—	65.0	114.4	8.5	0.94

表2 マルチ栽培における‘佐賀果試9号’の果実品質

年次	品種	収穫日	被覆日	横径(mm)	果実重(g)	糖度	クエン酸含量(%)
2012年	佐賀果試9号	10/12	6/7	61.4	90.5	13.1	1.24
	上野早生	10/13		57.8	80.9	11.7	1.17
2013年	佐賀果試9号	10/10	6/10	64.0	102.9	11.4	0.96
	上野早生	10/15		64.0	111.5	10.2	1.28
2014年	佐賀果試9号	10/10	6/5	60.7	91.7	11.1	1.04
	上野早生	10/20		61.6	92.0	10.3	1.36
2015年	佐賀果試9号	10/7	6/2	61.1	87.6	11.1	1.04
	上野早生	10/20		61.2	82.9	10.5	1.02

[その他]

研究課題名：極早生温州の高品質化と根域制限栽培の普及拡大を目指した技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：夏秋道俊・田島丈寛・久間祥子

発表論文等：